



## Client Matter Code と Forced Authorization Code の一括処理

Forced Authorization Code (FAC) と Client Matter Code (CMC) を使用すると、コールへのアクセスとアカウントリングを管理できます。CMC は、課金可能なクライアントに対するコール アカウントリングと課金を支援し、FAC は特定のユーザが発信できるコールのタイプを規定します。

CMC を使用すると、コールが特定のクライアント マターに関連していることを示すコードを入力するように強制されます。CMC は、コール アカウントリングや課金を目的として、顧客や学生、またはその他の個人に対して割り当てることができます。FAC 機能を使用すると、コールを完了する前に有効な認証コードを入力するように強制されます。

CMC 機能と FAC 機能を使用するには、ルート パターンを変更し、各ルート パターンに対する FAC や CMC の有効化または無効化を反映するようにダイヤル プラン ドキュメントを更新する必要があります。

この章は、次の項で構成されています。

- [CMC および FAC の設定チェックリスト \(P.50-2\)](#)
- [BAT の重要な考慮事項 \(P.50-3\)](#)
- [BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 \(P.50-4\)](#)
- [テキスト エディタを使用した Client Matter Code および Forced Authorization Code の CSV データ ファイルの作成 \(P.50-5\)](#)
- [既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集 \(P.50-6\)](#)
- [コードの設定の削除 \(P.51-1\)](#)
- [CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値 \(P.50-7\)](#)
- [BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新 \(P.50-8\)](#)

## CMC および FAC の設定チェックリスト

表 50-1 は、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して CMC と FAC を実装する手順を示しています。関連する手順については、P.50-9 の「関連項目」を参照してください。

表 50-1 Cisco CMC および FAC の設定チェックリスト

設定手順	関連する手順とトピック	
ステップ 1	BAT に関する重要情報、および CMC 機能と FAC 機能の概要を確認します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>BAT の重要な考慮事項 (P.50-3)</li> <li>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド</li> </ul>
ステップ 2	CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを作成し、CMC と FAC の設定情報を入力します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 (P.50-4)</li> <li>テキスト エディタを使用した Client Matter Code および Forced Authorization Code の CSV データ ファイルの作成 (P.50-5)</li> <li>CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値 (P.50-7)</li> </ul>
ステップ 3	Cisco Unified Communications Manager データベースを更新するために CSV ファイルを BAT に挿入します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新 (P.50-8)</li> <li>Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定 (P.50-9)</li> </ul>
ステップ 4	Cisco Unified Communications Manager の管理ページでルート パターンを追加または更新して、FAC または CMC を有効にします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド</li> <li>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド</li> </ul>
ステップ 5	ダイヤル プラン ドキュメントを更新するか、BAT CSV ファイルのプリントアウトをダイヤル プラン ドキュメントとともに保管します。	ダイヤル プラン ドキュメントを参照
ステップ 6	ユーザに対して、コードなどの必要な情報をすべて提供し、機能の内容を説明します。	Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド

## BAT の重要な考慮事項

BAT を使用して CMC または FAC を設定する前に、次の情報を確認します。

- CMC と FAC で別々の CSV ファイルを作成します。1 つの CSV ファイルにこの 2 つの機能を混在させないでください。
- CMC または FAC の設定を初めて追加する場合は、BAT.xlt を使用して CSV ファイルを作成するか、カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成することができます。
- CMC または FAC の設定を更新、削除、または追加する（初めての追加ではない）場合は、既存の CSV ファイルを編集するか、カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成することができます。
- ファイルおよびスプレッドシートでは、1 行に 2 つ以上のコード（およびそれに対応する設定値）を入力しないでください。各コード（およびそれに対応する設定値）に 1 行を指定します。たとえば、FAC 用のコードを入力する場合は、次の形式になります。

(FAC, 認証コード名, 認証レベル)

1234,John Smith,20

1235,Lisa Mendez,10

5551,Debbie Dunn,30

- ファイルから情報を削除してブランクにしても、その情報は Cisco Unified Communications Manager データベースから削除されません。つまり、ブランクの値ではデータベース内の既存の値は上書きされません。データベース内の既存の値は、値を更新すると上書きされます。
- 該当する CSV ファイルを、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードしたことを確認します。詳細については、[P.2-4 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。
- CSV ファイルを作成または変更する際には、[P.50-8 の「BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新」](#)で説明されているように、必ずその CSV ファイルを BAT に挿入する必要があります。

## BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成

BAT.xlt を使用して CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** BAT.xlt ファイルは Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノード上にありますが、通常、このサーバには Microsoft Excel がインストールされていません。その場合は、最初のノードからこのファイルをコピーして、Microsoft Excel がインストールされているローカルマシンに移動する必要があります。
- ステップ 2** サーバから **BAT.xlt** ファイルをダウンロードします。Microsoft Excel がインストールされているローカルマシンについては、[P.2-3](#) の「[ファイルのダウンロード](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Microsoft Excel で **BAT.xlt** を開きます。プロンプトが表示されたら、**[マクロを有効にする]** をクリックします。



---

**ヒント** 個別に 2 つの CSV ファイル (CMC 用と FAC 用の CSV ファイル) を作成する必要があることに注意してください。

---

- ステップ 4** 次のタブのいずれかをクリックします。
- **[Insert CMC]** : CMC 用の CSV ファイルを作成する場合
  - **[Insert FAC]** : FAC 用の CSV ファイルを作成する場合
- ステップ 5** [表 50-2](#) に従って、各カラムに CMC または FAC の設定値を入力します。
- ステップ 6** [ステップ 5](#) を繰り返し、すべてのコードを入力します。
- ステップ 7** Excel スプレッドシート形式を CSV ファイルに変換するために、**[Export to BAT Format]** をクリックします。

CSV ファイルが自動的にローカルマシンの C:\XlsDatafiles に保存されます。別のロケーションを選択するには、**[Browse]** をクリックします。

- ステップ 8** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、[P.2-4](#) の「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。
- ステップ 9** CSV ファイルを BAT に追加します。CSV ファイルを BAT に挿入する方法については、[P.50-8](#) の「[BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新](#)」を参照してください。

---

### その他の項目

詳細については、[P.50-9](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## テキスト エディタを使用した Client Matter Code および Forced Authorization Code の CSV データ ファイルの作成

値がカンマで区切られた ASCII テキストを複数行使用して、カンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成することができます。カンマ区切り値 (CSV) ファイルでは、テキスト情報は表形式で与えられます。Client Matter Code と Forced Authorization Code のテキストベースの CSV データ ファイルの詳細については、[P.A-20 の「Client Matter Code と Forced Authorization Code のテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成」](#)を参照してください。

### その他の項目

詳細については、[P.50-9 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集

既存のコードを更新する場合は、Notepad で既存の CSV ファイルを手動で更新するか、または Notepad で新規のファイルを作成します。

次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** 以前にコードを挿入した既存の CSV ファイルを編集するには、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードから CSV ファイルをダウンロードします。詳細については、[P.2-4](#) の「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。
- ステップ 2** Notepad で既存の CSV ファイルを開いて編集します。[表 50-2](#) のテキストベースの表現を使用して、既存の設定の削除、新規コードの追加、または既存の設定の更新を行います。

CMC 用 CSV ファイルを更新する場合は、たとえば、5555,Acme Toys のように入力することができます。ここで、5555 は必須の Client Matter Code、Acme Toys は説明 にそれぞれ相当します。

FAC 用 CSV ファイルを更新する場合は、たとえば、1234,John Smith,20 のように入力することができます。ここで、1234 は FAC、John Smith は 認証コード名、20 は認証レベルにそれぞれ相当します。



### 注意

---

新規コードの追加やコードの更新を行う場合は、必要な情報をすべて入力してください。既存のレコードでは、任意の部分を変更できますが、認証に必要な FAC や CMC などは必ず含めなければなりません。情報を削除したりブランクにしたりしても、その情報はデータベースから削除されません。データベース内の既存の値は、ブランクの値では上書きされませんが、前述の例にある値を Acme Toys, Inc. や John L. Smith などに更新すると上書きされます。

---

- ステップ 3** CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、[P.2-4](#) の「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。
- ステップ 4** CSV ファイルを BAT に追加します。CSV ファイルを BAT に挿入する方法については、[P.50-8](#) の「[BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新](#)」を参照してください。
- 

### その他の項目

詳細については、[P.50-9](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。


## CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値

次の各項と表 50-2 を併せて参照してください。

- BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 (P.50-4)
- テキスト エディタを使用した Client Matter Code および Forced Authorization Code の CSV データファイルの作成 (P.50-5)
- 既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集 (P.50-6)
- コードの設定の削除 (P.51-1)

関連する手順については、P.50-9 の「関連項目」を参照してください。

表 50-2 CMC および FAC の設定値

設定 / カラム	説明
<b>For CMC CSV file (CMC 用 CSV ファイル)</b>	
Client Matter Code	ユーザがコールを発信するときに入力する 16 桁以内の固有のコードを入力します。CMC は、このコードを使用するコールの CDR に表示されます。
Description	50 文字以内の名前を入力します。このオプションのフィールドは、クライアントコードとクライアントの関連付けに役立ちます。
<b>For FAC CSV File (FAC 用 CSV ファイル)</b>	
Forced Authorization Code	16 桁以内の固有の認証コードを入力します。ユーザは FAC 対応のルートパターンでコールを発信するときこのコードを入力します。
Authorization Code Name	50 文字以内の固有の名前を入力します。この認証コード名は、認証コードを特定のユーザまたはユーザのグループに結び付けます。この名前は、このコードを使用するコールの CDR に表示されます。
	 <p><b>ヒント</b> システム内のすべてのユーザに認証コードを割り当てる場合は、コード名にユーザの識別情報を含めるようにしてください。この識別情報には、ユーザ名やその他の機密性のない固有の識別情報（たとえば、電子メールのエイリアス、社員番号、学生番号）などを使用してください。認証コード名は CDR に書き込まれ、安全でないため、社会保障番号などの識別情報は使用しないでください。</p>
Authorization Level	0 ~ 255 の範囲内の 3 桁の認証レベルを入力します (デフォルトは 0)。認証コードに割り当てるレベルによって、ユーザが FAC 対応のルートパターンでコールをルーティングできるかどうかが決まります。コールを正常にルーティングするには、ユーザの認証レベルがそのコールのルートパターンに指定された認証レベル以上である必要があります。

## BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新

Cisco Unified Communications Manager データベースを更新するには、BAT に CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを挿入する必要があります。データベースを更新するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

Cisco Unified Communications Manager を更新する前に、CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを作成または編集する必要があります。

### 手順

**ステップ 1** CMC 用と FAC 用のどちらの CSV ファイルを使用したかに応じて、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで次のいずれかのオプションを選択します。

- CMC の場合 : [一括管理] > [CMC] > [CMC の挿入]
- FAC の場合 : [一括管理] > [FAC] > [FAC の挿入]

**ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、更新されたコードが含まれる CSV ファイルを選択します。



**ヒント** 挿入するファイルの内容を表示するには、[ファイルの表示] をクリックします。

**ステップ 3** 既存のコードのリストを更新する場合は、表 50-3 で説明されているように、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

**ステップ 5** [今すぐ実行] オプション ボタンをクリックしてレポートを即座に生成するか、[後で実行] をクリックして後でレポートを生成します。

**ステップ 6** [送信] をクリックして、FAC と CMC を挿入するジョブを作成します。

ジョブの詳細については、第 63 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、P.64-4 の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

### その他の項目

詳細については、P.50-9 の「関連項目」を参照してください。



## Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定

P.50-8 の「BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新」と表 50-3 を併せて参照してください。関連する手順については、P.50-9 の「関連項目」を参照してください。

表 50-3 CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定

BAT の設定	説明
[ファイル名 (File Name)]	ドロップダウンリスト ボックスから、挿入する CMC ファイルまたは FAC ファイルを選択します。
[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)]	このチェックボックスは、既存の設定のコードを更新する場合に適用されます。  このチェックボックスをオンにすると、既存の認証コード名 (FAC)、認証レベル (FAC)、または説明 (CMC) が、挿入するファイルに含まれている情報で上書きされます (既存の認証コードと CMC は変更されません)。このチェックボックスをオンにしないと、該当の認証コードまたは CMC がすでに存在することを示すエラーがログ ファイルに書き込まれ、更新は行われません。

### 関連項目

- CMC および FAC の設定チェックリスト (P.50-2)
- BAT の重要な考慮事項 (P.50-3)
- BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 (P.50-4)
- テキスト エディタを使用した Client Matter Code および Forced Authorization Code の CSV データ ファイルの作成 (P.50-5)
- 既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集 (P.50-6)
- コードの設定の削除 (P.51-1)
- CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値 (P.50-7)
- BAT を使用した Cisco Unified Communications Manager データベースの更新 (P.50-8)
- Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する場合の BAT の設定 (P.50-9)
- P.A-20 の「Client Matter Code と Forced Authorization Code のテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成」

■ 関連項目